

第5学年3組 算数科学習指導案

令和5年12月1日(金) 5時間目
 児童数 31名
 指導者 T1 下田 楓
 T2 出浦 芳枝
 場所 5年3組教室

1 単元名 割合
 2 指導計画

通常授業		濃縮授業	
時	学習のねらい	時	学習活動
1	シュートの入った回数とシュートした回数の関係に着目し、一番よく成功した人の比べ方を考えることができる。	1	
2	割合の意味がわかり、割合を使った比べ方ができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 割合とは、シュートした回数(もとにする量)を1とみたとき、シュートの入った回数(比べられる量)がどれだけに当たるかを表した数 $\text{割合} = \text{比べられる量} \div \text{もとにする量}$ </div>	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ※授業後半に練習問題に多く取り組むことのできる授業を展開する。 ○短い時間で自立解決する。 ・数直線のかき方の定着 ・ワークシートの活用 (数直線の線を入れておく) ○全体で話し合う。 ・効率のよい話し合い。 ・電子黒板、拡大図の活用。 ○まとめ→練習問題→振り返り </div>
3	・割合を求めることができる。 ・割合を百分率で表すことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> $0.01=1\%$ (パーセント) $1=100\%$ </div>	3	
4	比べられる量を求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> $\text{比べられる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$ </div>	4 本時	○問題を把握する。 ○課題を考える。 ・比べられる量がわからないことを確かめる。 ○見通しをもち、自立解決する。 ○まとめ→練習問題→振り返り
5	もとにする量を求めることができる。もとにする量を□とし、比べられる量を求めるかけ算の式に表して考えるとよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> $\square (\text{もとにする量}) \times \text{割合} = \text{比べられる量}$ $(\square) \text{もとにする量} = \text{比べられる量} \div \text{割合}$ </div>	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ※授業後半に練習問題に多く取り組むことのできる授業を展開する。 ○練習問題をする時間 20分 </div>
6	割合の適応問題を解くことができる。	6	
7	和や差を含んだ割合の場合の比べられる量を求めることができる。	7	
8	いかしてみよう ・学習したことを生かして割引や値引きの値段を比べる問題を解くことができる。	8	たしかめよう→復習プリント →タブレット学習 (ジャストスマイルドリル)
9	たしかめよう		※いかしてみようの学習は、1月以降に行う。
10	単元テスト	9	単元テスト


3 授業の意図

本単元では、2つの数量の関係について割合を用いて比べる場合があることや、百分率による割合の表し方を理解し、割合を用いた比べ方や百分率の表し方を図や式を用いて考え、求めることができることがねらいである。そして、日常生活に生かす力を伸ばしていく。

児童にとって、「もとにする量」は何か、「1とみる」とはどういうことかなど、割合の学習は難易度が高いので、数直線をかき活動を大切にしていきたい。前単元の【小数の倍】【単位量あたりの大きさ】においても、数直線をかき、それをもとに式をたて、言葉で説明するという活動を重視してきた。本単元でも、数直線を活用し、2つの数量関係について割合で比較していく良さに気付かせ、割合の理解を深め、今後の生活に生かしていこうとする児童を育てていきたいと考える。

また、どの時間においても、自立解決や全体での話し合いの時間を効率よく行い、授業後半の練習問題の時間を十分に取(20分)、T2の教員、学力向上支援員も担任とともに、個別指導や評価にあたり、習熟を図る。

4 本時の展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点
<p>1 問題場面を把握する。</p> <p>飲み物は全部で 280ml です。このうち果汁が 20%ふくまれています。飲み物に入っている果汁は何 ml ですか。</p> <p>2 課題をつかみ、解決の見通しをもつ。</p> <p>比べられる量は、どのように求めるのかな。</p> <p>もとにする量 1</p> <p>全部の量 280ml</p> <p>果汁の量 全体の量の 20% ⇒ 0.2</p> <p>割合</p> <p>比べられる量 □ml</p>		<p>○果汁 20%ジュースのイメージがわかるよう、実物に似た絵図を提示する。</p>  <p>○飲み物全部 (280ml) がもとにする量 (1)、果汁 20%が割合であることを確かめ、果汁□ml は比べられる量にあたることを児童から引き出し、課題につなげる。</p> <p>○百分率で表されている割合を、そのまま計算してよいか児童に問いかけ、小数に表し計算していくことを再確認しておくようにする。</p>
<p>3 自立解決する。</p> <p>0 280 (mL) 割合</p> <p>0 0.2</p> <p>×0.2</p> <p>×0.2</p> <p>280 × 0.2 = 56</p> <p>答え 56ml</p> <p>比べられる量 = もとにする量 × 割合</p>		<p>○数直線をかいたプリントを用意し、効率よく取り組めるようにする。</p> <p>○比べられる量がもとの量の何倍になるのか問いかけ、0.2 倍になることを矢印を使って表すようにする。</p> <p>○数直線がかけていない児童には、矢印がもとなる 1 から出るように声掛けをし、支援をする。</p> <p>○T2 は机間巡視をしながら、児童の丸付けをどンドン行う。</p> <p>○数直線を指しながら、問題解決の説明をするようにする。</p> <p>○練習問題を解く時間を確保するために、数直線の仕組みをもとに比べられる量の求め方を簡潔に説明する。</p>
<p>4 全員で話し合い、まとめをする。</p> <p>比べられる量 = もとにする量 × 割合</p>		<p>○ワークシートが終わったら、タブレットを使って、ジャストスマイルドリルの問題を解くよう伝える。</p> <p>○ジャストスマイルドリルは AI で利用しているので、児童によって適切な問題ができるようにする。</p>
<p>5 練習問題を解く。(20分～25分)</p> <p>タブレット画面</p> <p>□にあてはまる数を求めましょう。</p> <p>$\frac{3}{5} = \frac{5}{15} = \frac{27}{45}$</p>		

5 ワークシート

比べ方を考えよう③

名前()

1 右の飲み物は、全部で 280ml です。このうち、果汁が 20%ふくまれています。右の飲み物に入っている果汁は何 ml ですか。

② 20%を小数で表すと...

③ 考えよう!

式 _____

答え _____

④ 比べられる量は、 _____ で求められる。

⑤ やってみよう!

● 店員が 70 人のバスに、定員の 120%の人が乗っています。このバスに乗っている人は何人ですか。

① 120% →

式 _____

答え _____

● ゆうさんは、3000 円のセーターを、もとのねだんの 90%のねだんで買いました。代金はいくらでしたか。

② 90% →

式 _____

答え _____

● ある学校の全体の人数は、300 人です。そのうち 20%が 5 年生です。5 年生は何人ですか?

③ →

式 _____

答え _____

● 学校の図書館には、本が 5600 冊あります。そのうち、45%が物語の本です。図書館には物語の本が何冊ありますか。

④ →

式 _____

答え _____

⑤ _____



T2
学力向上支援員
担任
が役割分担をして、
すぐに評価!

☆評価

【知識及び技能】基準量と割合から比較量を求めることができる。